

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100288		
法人名	前橋市農業協同組合		
事業所名	JA前橋市グループホーム上陽		
所在地	群馬県前橋市中内町40-4		
自己評価作成日	令和2年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=1090100288-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和2年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な施設に比べると家庭的な雰囲気の中、ゆったりとした生活を営むことができます。 ・地域の方々が芸能ボランティアとして多数来所され、交流を図っています。 ・定期的に利用者に希望や要望を伺っています。 ・利用者が好まれるおいしくて温かな食事提供を心掛けています。 ・施設が綺麗で雰囲気が明るいとご家族や来所された方から評価をいただいています。 ・希望する方は訪問診療や訪問歯科を利用し、外来ではなくホーム内でも診察が受けられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム・小規模多機能型居宅介護事業所を運営し、地域密着に特化した取組みの視点で、日常の介護支援が行われている。事業所が掲げる理念は職員の介護提供やその振り返りに活用され、役職者と職員の自由な意見交換が行われている。また、事業所の運営課題について職員や運営推進会議メンバーからの意見を早い段階で取り入れ、実践につなげている。その他、施設内清潔、室温管理、採光等環境整備に力を注ぎ、利用者の健康への配慮を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中でも、特に時間に流されず、家庭的な雰囲気の中、日々の支援を心掛けています。	居室の表札は、家庭的な雰囲気のなかで生活できるようにと、個性を尊重して見やすさを考え、利用者同士の交流にもつながらせるよう作成して、掲げている。ゆったりとした空間での生活支援を念頭に、職員は共通理解を図って支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民がボランティアとして頻回に来所し、顔見知りの間柄になるなど交流を図っている。	近隣へ事業所便りを回覧板に入れて案内し、事業所理解の一助となるよう継続している。また、事業所のすぐ裏にある公民館へ利用者と一緒に出かけたり、ウッドデッキに出て日光浴を楽しんだり等地域交流の支援を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学会の開催、地域ケア会議で地区の事理会長や民生委員、介護予防サポーターなどとグループワークに取り組んでいる。ボランティアセンターや地元中学校の職場体験で、ボランティア活動の受け入れも行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。自治会長、民生委員、地域包括支援センター南部をはじめとする地域の方や利用者家族との意見交換を行い、助言や提案を運営に反映するよう努めている。	定期的に会議を開催し、メンバーである民生委員からの提案で、補助金を得て避難経路のスロープ設置が実現し、このことで車いすを利用している利用者の避難経路の確保ができた事例がある。会議出席者、職員や利用者、その家族と喜びの共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に6回開催される運営推進会議には地域包括支援センター南部の職員も参加されるなど協力していただいている。介護保険に関し、不明な点があれば曖昧なままにせず、市の担当部署に連絡し、助言を求めると連携を図っている。	介護保険関係の相談や報告を通じて、市との関係を築くよう努めている。なかでも運営推進会議のメンバーである担当職員との協力関係の継続のため、事業所内での報告を適宜行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。仮に必要な場合には同意を得る必要があることなど職員に周知している。	身体拘束について管理者は、職員に継続的な指導や事例を通して、共通理解が図れる機会を設けている。また、問題行動に対しての事例も、拘束にあたるものか等、職員間で考えながら適切な身体介護につなげる支援を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設職員アフター研修などを通して、身体的虐待はもちろんだが、心理的虐待、ネグレクトを含めた高齢者虐待防止について研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に日常生活自立支援事業や成年後見制度について、アフター研修などで取り上げ、職員間で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要であれば利用前にご自宅へ訪問したり、電話連絡をし、契約時に十分時間をとり、なるべく利用者を含め不安や疑問点をお聞きし、安心・納得して利用開始していただくよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から出た意見、要望は、日常的に申し送り共有し、全職員が把握できるようにしている。職員から出た意見は、職員会議などに諮り、業務の見直し等に活かしている。	家族からの、職員の顔と名前が一致できないという意見に対して安全な名札の装着を実現し、コミュニケーションが図りやすくなった。利用者の食事メニューの要望があれば、迅速に対応するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員同士が意見の言い合える雰囲気や関係づくりに努め、提案し実現できるようにしている。職員会議以外でも気軽に自分の意見が表現できる環境を心掛けている。	課長、管理者、職員間で、直接意見や意見交換ができる関係性を築くよう日々努めている。また、職員から他のグループホーム見学の要望を取り入れて実施し、その学びを介護支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前に比べ、有給休暇を計画的に取得しやすい職場環境になっている。サービス残業にならないよう業務の分散も図っている他、介護職員処遇改善加算等も活用し、経験を積んだ職員の給与水準改善も図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は、職員がマンツーマンで利用者に対する接し方、介護についてトレーニングを行っている。毎月の内部研修の他、外部研修にも多くの職員が参加ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のケアマネや事業所の方々と懇談する場に参加できている他、研修などを通して顔が見える関係性を構築し、横のつながりも活用しながら利用者の支援にあたることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を活用し、本人・家族の要望を職員間で共有して、利用者が安心して利用できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時、受容的対応や非審判的対応を心掛け、安心した雰囲気の中、困っていることや不安なことなどを表現できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かかりつけ薬局の他、訪問診療、訪問歯科なども活用し、事業所だけで支えるのではなく、他の社会資源も活用した支援を実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事を見だし職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっての今の課題について一緒に考え、家族にも本人の気持ちを伝え、偏りのない支援に繋げる努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、面会の他、昔からの友人なども面会に来る方もいる。なるべく関係性が途切れないよう努めている。	利用者の中には、旧友(幼馴染)が面会に来てくれる方もいる。利用者の個別性から、関係の必要な方は誰なのかを考えながら、関係者、必要な場所などに出かける、迎える、会話に取り入れる等努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみを一緒に行う、好きな歌などを皆で歌う、カルタを皆で行うなど共同生活が送れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはサマリーをお渡しし、円滑に新生活が営めるよう支援するとともに、先方の社会福祉士やケアマネとの連携、家族に様子確認を行うなどアフターフォローにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との面談の中から、意向や希望を確認し、家族と話し合いつつ、本人にとって必要な支援は何か把握するよう努めている。	会話ができる方からは、日常生活の会話で意向や意見を聞く支援を行っている。また、言語にできない方には嬉しそうな表情などを(エピソード)記録にして、職員と共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に事前に生活歴を聞き取り、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員、出勤したらすぐに、ケース記録や申し送りノートを確認し、情報共有している。毎日のバイタル測定も行い、体調の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き、課題やケアのあり方を多職種で話し合い、介護計画を作成している。大幅な変更あった際にはその状況に即した見直しも適宜行っている。	職員は日常、介護記録を行い、毎月のケース会議で変化等のある場合は支援方法の検討、モニタリングを行うシステムがある。介護計画と記録がリンクするよう取り組み中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人に意見や要望を聞きながら、本人の体の状態の変化によって、ケース記録や申し送りノートで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケース記録や申し送りノートで職員間で情報共有し、その情報で1人一人のニーズに合わせ支援できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でサークル活動などをされている方々を芸能ボランティアとして来所していただき、利用者との交流を図ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、情報提供は行うが、本人、家族の選択に委ねている。訪問診療に来ている医師や薬剤師とは何かあれば相談できる関係性が作れており、必要に応じた医療が受けられている。	入居時、医療機関の選択を、家族や本人ができるよう説明をしている。事業所は、協力医による訪問診療が必要な相談や定期加療支援が行われるよう支援している。また、その受診の状況について、定期的に家族に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設に勤務している看護職が常勤で勤務しており、連携を図りながら支援することができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には県や市が推進している入院時情報提供書の様式を活用し、申し送りを行っている。 連携室のソーシャルワーカーや病棟看護師とも連携を図り、退院調整等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一部職員が、看取りについて積極的に研修等に参加している。重度化した場合や医療行為が必要になった場合の対応については、契約時を含め、本人、家族には説明をし、同意を得ている。	食事が摂れなくなった時点を看取りと考え、医療機関もしくは主治医、家族と相談をしている。看取りの状態になっても、事業所内での継続支援を視野に入れて、今後の課題にしている。	利用者の高齢化や重度化に伴って、終末期の生活の場所の変更は利用者やその家族にとっても苦痛が伴うことを理解しているので、事業所の今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や初期対応等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の西側、北側が車椅子での避難が難しい状況があったが、補助金を活用し、スロープ化等の改修工事を行っている。	自治会長との協力関係はできているおり、他関係者への理解や周知のため、回覧板で事業所通信の配信をしている。定期的な訓練は、近所にある消防署の協力のもと実施している。災害時に必要な備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴時の声掛けやプライバシーなどに配慮した支援、介助を行っている。	職員は、日常の介護支援において、スピーチロックを含め、プライバシーに配慮した排せつ介助や入浴介助等、利用者との信頼関係に重点を置いた介護支援を心がけている。	一人ひとりが大切にしている尊厳やプライバシーについて考え、職員間で共通理解を図って支援につなぐ取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や発言を聞き、職員が決めるのではなく、本人が選択できるような働きかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、やりたい事など1人ひとり聞き、自分のペースで行えるよう支援している。塗り絵や制作など集団で取り組む場面もあるが、本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で管理ができる方は自分が着たい服を自分で選んで着用されている。自分で管理できない方については、家族と相談し、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を聞き、すぐに反映している。利用者の好み好き嫌いは、調理に入る職員は特に本人の嗜好を把握している。	食事の好みや食べたいものを聞きながら、調理メニューに取り入れる取り組みをしている。食事時の雰囲気を観察して、テーブルを囲む利用者同士が和やかに食事が進む環境支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時期のものを取り入れ、肉・魚などバランス良く提供している。お茶・ジュース・スポーツドリンクなどは、常に用意し必要に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりの口腔状態に合わせた口腔ケアを行っている。また、治療が必要な方は外来受診を依頼する他、外来受診が難しい方については訪問歯科の情報提供を行い、家族同意の下、適切な治療をもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声掛け、誘導、介助などを行い、なるべく自立した排泄が行えるよう支援している。	排泄行為は失敗がないように、利用者毎に排泄記録を基に声かけ、トイレへの誘導支援をしている。夜間については、おむつ利用の介助も行われている。	利用者毎に自立支援に基づいたその人に必要な介助内容を整理して、職員間で共通理解を図る取り組みに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事提供の他、水分不足にならないようこまめな水分摂取、体操を毎日行うなど介護職としてできる支援を行っている。		
	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	プラバシーに配慮し、ゆったりとした時間の中で職員がマンツーマンで入浴介助を行っている。	入浴は利用者の状況に合わせて、週2回程度を計画して行われている。その対応は、一対一の介護としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を妨げないよう注意を払いつつ、状況に合わせた休息を心掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報が常に見られるようファイルされており、処方が変わった際は、申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた日常的な作業や趣味(塗り絵、カラオケ、カルタ、卓上レクなど)の時間を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いちご狩りや花見など外出の機会を設けてはいる。外出を好まない方もおり、強制はしていないが、なるべく昼間は日光に当たり、健康的な生活が維持できるよう支援している。	日常的にウッドデッキを活用して、日に当たる機会をつくっている。希望があれば事業所裏にある公民館に散歩を行い、健康面に配慮した実践を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は帳簿を作成し、「預り金」として金庫で少額を預かっている。本人で管理できる方は、自己責任に基づき管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルームにて使用できる状態である。自分でかけることができない方は、必要に応じて職員が代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって室温調節や加湿などこまめに行っている。浴室やトイレなどは、分かりやすく表示にしてある。居心地の良い空間を心掛けている。	共用スペースは居心地よく過ごせるように、掃除、掲示などに力を注いでいる。製作品の飾りなども利用者の意見を聞きながら、季節を感じるができるように工夫に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者や独りであることが好きな方などを職員が良く把握しており、バランスをみながら座席など配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に合わせて、テレビを置いたり、写真を飾るなど本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	利用者個々の力に合わせた掃除や、家具の配置や飾りなどの環境整備を、家族と相談しながら行っている。自宅から馴染みの家具を持ち込むなど、居心地よい場所作りも行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう、個人の押し車の置き場所やベッドの位置などにも配慮している。私物の置き場所など随時検討し、安全な環境づくりを心掛けている。		